

昔のお金



昔、江戸時代のころ、お金として小判が使われ、大金持ちは百両や千両を蔵（くら・・今では金庫）にたくさんためていました。金持ちにあやかって、縁起（えんぎ）がよいということで、植物にも千両や万両などの名前をつけました。

これらの花は白色が多く小さいのでほとんど気がつきませんが、秋になると赤い実が目立ってきます。

また、形が小判によく似た草花もありますので、気をつけて観賞しましょう。



マンリョウ（万両）

1 mぐらいの高さの木で7月ごろ花をつけ、10月ごろに葉の下に赤い実がたくさんぶら下がります。鳥が種を運ぶので、庭などによく生えます。



センリョウ（千両）

50～100 cmぐらいの木で7月に黄緑色の花をつけ、10月ごろに赤い実が茎の先につきます。これも鳥がよく種を運びます。



カラタチバナ（百両）

高さは20～100 cmで7月ごろに白い花をつけます。秋になると赤い実がぶら下がりますが、多くても10個ぐらいです。ならやまには1本しかなく、わりにめずらしい木です。



ヤブコウジ（十両）

高さ10～30 cmぐらいで、林の中で茎が地面の上をはいまわって、所どころから立ち上がります。葉のつけ根に2～3個の白い花をつけ、10月ごろに赤い実がひっそりつきます。



コバンソウ



ヒメコバンソウ

イネ科の仲間の野草で、5～6月ごろに小さな小判形の花をたくさんつけます。

小判がいっぱいぶらさがっているようです。

